

次期まちづくり計画に向けた「まちの将来像」について

次回のまちづくり委員会で、「まちの将来像」の設定を予定しています。

それに向けて、委員のみなさまが考える「まちの将来像」を事前にいただきたいと考えています。

住民アンケート、中高生アンケート、職員ヒアリングなどから、町の将来に対するさまざまな意見や期待をまとめた資料も参考にしながら、「10年後、どのような町になってほしいか」「これからのまちづくりで何を大切にしていきたいか」という視点から、まちの将来像を表すキャッチコピーと、その理由をお書きください。

1. 「まちの将来像」キャッチコピー

--

※文字数・行数は問いません。

2. そのキャッチコピーに込めた思い・理由

「どのような町になってほしいか」「何を大切にしたいか」など、キャッチコピーに込めた考えをお書きください。

--

※キャッチコピーは、次期計画の将来像を決定するものではありません。委員のみなさまが考える「まちの将来像」を共有し、今後のまちづくりの方向性を話し合うための材料として活用します。

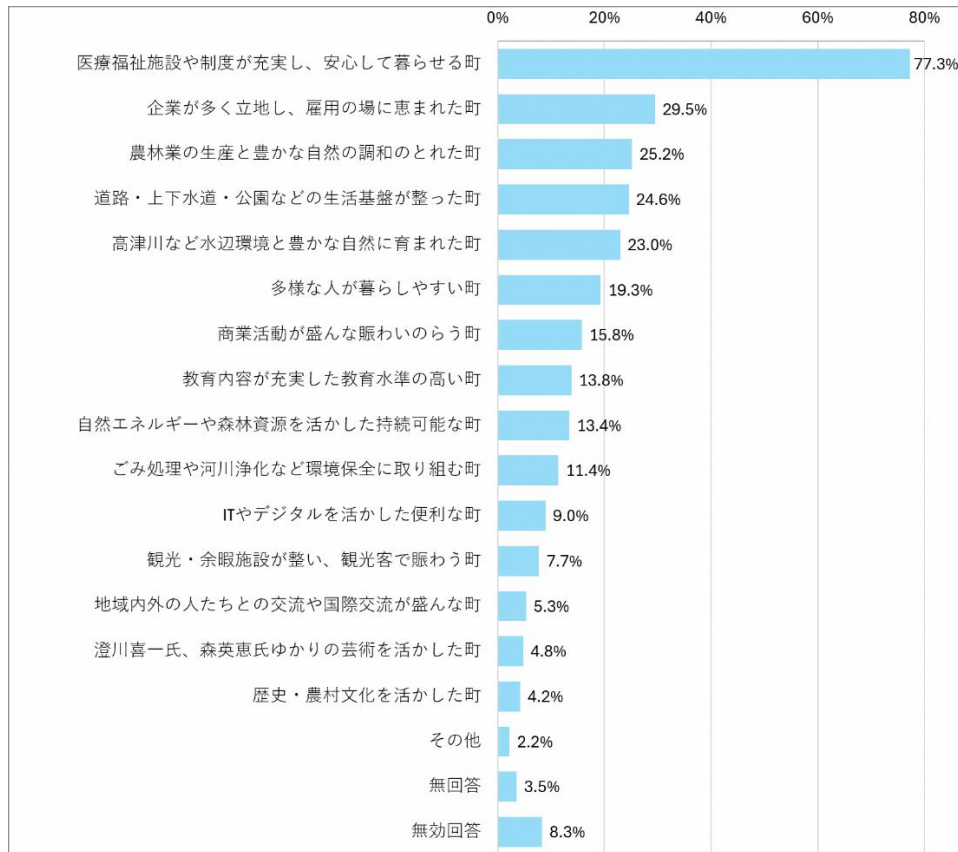
提出締切 / 9月16日（水曜日）

<参考>

1. 住民アンケート

(1) 4-3 今後の吉賀町のまちづくりを進めていく上で重要と思う施策

(n=1071)



回答区分	件数	割合
医療福祉施設や制度が充実し、安心して暮らせる町	828	77.3%
企業が多く立地し、雇用の場に恵まれた町	316	29.5%
農林業の生産と豊かな自然の調和のとれた町	270	25.2%
道路・上下水道・公園などの生活基盤が整った町	263	24.6%
高津川など水辺環境と豊かな自然に育まれた町	246	23.0%
多様な人が暮らしやすい町	207	19.3%
商業活動が盛んな賑わいのらう町	169	15.8%
教育内容が充実した教育水準の高い町	148	13.8%
自然エネルギーや森林資源を活かした持続可能な町	144	13.4%
ごみ処理や河川浄化など環境保全に取り組む町	122	11.4%
ITやデジタルを活かした便利な町	96	9.0%
観光・余暇施設が整い、観光客で賑わう町	83	7.7%
地域内外の人たちとの交流や国際交流が盛んな町	57	5.3%
澄川喜一氏、森英恵氏ゆかりの芸術を活かした町	51	4.8%
歴史・農村文化を活かした町	45	4.2%
その他	24	2.2%
無回答	38	3.5%
無効回答	89	8.3%
合計	1071	100.0%

今後の重要な施策として、「医療福祉施設や制度が充実し、安心して暮らせる町」が77.3%と最も高く、次点の「企業が多く立地し、雇用の場に恵まれた町」(29.5%)を大きく上回っている。

そのほかでは、「農林業の生産と豊かな自然の調和のとれた町」(25.2%)、「道路・上下水道・公園などの生活基盤が整った町」(24.6%)、「高津川など水辺環境と豊かな自然に育まれた町」(23.0%)などが続いている。

(2)「今後のまちづくりへの期待」について

まちづくりアンケートの自由記述では、今後のまちづくりに対する要望や提案、期待など、186件の意見が寄せられました。

これらの意見から、今後のまちづくりやまちの将来像を考えるうえで参考となる内容を、次の6つのテーマに整理しました。

※掲載している意見は、各分類に関連する回答の中から主なものを抜粋掲載。引用部分は、原則原文のまま掲載しています。

○若い世代や子どもの住み続けやすさ、帰りやすさ

若い世代が町に愛着を持って住み続けられることや、進学等で町外に出ても帰ってこられる環境を求める意見があった。そのためには、働く場や住まい、子育て・教育環境などを整え、子どもや若い世代にとって暮らしやすい環境をつくるのが大切との意見があった。

- ・「できるだけ多くの若い人達にこの町に愛着を持って 長く暮していって頂くよう願っています」
- ・「町内に（柿木 七日市 六日市）子供達が遊べる場所（公園）があるといい。孫達が帰って来ても遊ぶ場所がなくTVやゲームをするだけ…町外に連れ出し（大竹 岩国など）公園で遊ばすしかない。」
- ・「若い人が住む家働く場所があることが大事です。」
- ・「移住者や外国人を入れるより今いる若い人たちが定住できるように雇用など充実させてほしい」
- ・「若い人が住みよい若い人が帰って来れやすい町づくりが必要でないか？」
- ・「子や孫がくらししていける収入が有り、たのしい町となしてほしい」

○誰もが安心して暮らせる環境

子どもから高齢者まで、年齢や状況にかかわらず安心して暮らし続けられる環境を求める意見があった。特に、医療・福祉、買い物、移動など、日常生活に必要な機能を維持・充実することや、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境を求める意見があった。

- ・「少子高齢でも安心してらせる街づくり」
- ・「高齢者にとって必要不可欠な医療施設はぜひ継続してほしい（夜間診療も含む）」
- ・「車の運転に不安のある高齢者が頼れる安価で頼みやすい移動手段をつくってください」
- ・「少子高齢化が加速しており医療体制の充実、独居高齢者へのサポートの充実（入院、通院、買い物、見守りなど）」

- ・「吉賀病院、夜間の緊急外来をまたはじめる事、外来がないと安心して住めません」
- ・「衣食住に必要な事が整った環境であって欲しい」

○働く場所や地域の活力

若い世代の定住や人口減少への対応には、町内で働き、生活していける環境が重要との意見があった。また、地元企業や商店、農業などを大切にするとともに、地域の中で経済が回り、地域の活力につながる取り組みを求める意見があった。

- ・「雇用、 職場がないと人口減る一方である。」
- ・「商業とのレンケイ、地元業者を大事にしてください。」
- ・「農業後継者になりやすい仕組づくり」
- ・「町内で働いたお金が町内で回る仕組みをつくる地域内経済の循環」
- ・「働く場所がなければ住めないと思います。」
- ・「町民の収入を増やすことをはからないとどんどん人口が減るばかりだと思えます。」

○自然や地域の魅力を守り、活かす

高津川や山、農地、景観など、町が持つ豊かな自然を守り、次の世代へ残していくことを求める意見があった。また、自然や文化、人物など、地域にある資源を活かし、観光や交流、情報発信につなげ、町ならではの魅力を高めることへの期待があった。

- ・「自然を生かした遊び場づくりや、自然を生かしたキャンプアウトドア施設の整備など、自然の魅力を最大限に活かした観光街づくりを進めてほしい。」
- ・「吉賀町の良さが他県の人、都市部の人に伝わってほしい。」
- ・「農業・農地を守ることに本気を出し具体的な町民への応援をしてほしい。」
- ・「自然がとても豊かかと思います。大事にしてあげてください。」
- ・「きれいな高津川を守るためにはどうすれば良いですか？」
- ・「何かを造るのも良いが、キレイな田舎造りも大切だと思う。」

○人とのつながり、交流、楽しみ

人口が減少する中でも、子どもから高齢者まで、人が集い、交流し、楽しめる場所や機会を求める意見があった。また、地域の中で人とのつながりを感じられることや、町内外の人が交流することで、暮らしの楽しさや地域のにぎわいにつなげることへの期待があった。

- ・「若い人が楽しめるレクリエーション施設があるとよい。」
- ・「食事したりコーヒーを飲む店は人と人とが会うのに大切（コミュニケーション）」
- ・「町民が安らげる公園」

- ・「スポーツを活かした交流人口の拡大」
- ・「美術館を建てきんみん祭の時のように誰もが作品を展示出来、お客さんが多く来られるまちづくちを希望します。」
- ・「夢花マラソン等のイベントをもっとやって、他の地域の方に来て頂く機会を、増やして吉賀町を知ってもらふ事が重要だと考えます。」

○人口減少を見据えたまちづくり

人口減少が進むことを見据え、将来の人口規模に応じた学校や公共施設、生活機能などのあり方を考える必要があるとの意見があった。また、目指す町の姿を明確にするとともに、行政だけでなく住民や若い世代などの意見を取り入れ、将来像を共有しながらまちづくりを進めることを求める意見があった。

- ・「20年後の人口は激減します。町内にある建物で必要以外は残さない。」
- ・「町議会、役場等常に一緒になって考える前進ある町に頑張る事を期待しております」
- ・「ぶれない吉賀町の目指す姿が明確であると良いかな」
- ・「住民の意見をもっと聞き、その意見をしっかりと取り入れて話をすすめてほしい。」
- ・「あいまいな理想だけではなく明確な目標をかかげて町づくりに臨んでほしい」
- ・「人口規模に応じたまちづくりをするしかないのでは」

2. 中高生アンケート

中高生アンケートでは、今後の吉賀町について、「10年後も残っていてほしい・守りたいもの」「将来どんな町になってほしいか」について意見を聞くとともに、それらを踏まえて「吉賀町のキャッチコピー」を考えてもらいました。

中高生が大切に考えていること、将来どのような町になってほしいか、主な意見を整理しました。

(1) 3.4 10年後の吉賀町に「残っていて欲しい・守りたい」と思うものは何ですか。

○豊かな自然や景観

高津川やきれいな水、山、森、田んぼ、生き物など、吉賀町の豊かな自然を残したいという意見が多くありました。

- ・「高津川の水のきれいさ」
- ・「すぐに遊べるようなきれいな川・自然の食べ物」
- ・「吉賀町ならではの山や川などの豊かな自然や生き物」
- ・「自然全般。自然を壊して欲しくない。」

○人の温かさや地域のつながり

地域の人の優しさやあいさつ、人と人とのつながりや交流など、現在の吉賀町にある人との関係を残したいという意見がありました。

- ・「地域の人の優しさと笑顔を守ってほしい」
- ・「地域の人同士のつながり」
- ・「町民同士の結束力」
- ・「一人ひとりがあいさつをすること」

○学校や身近な暮らしの場

自分が通った学校や商店、公共施設など、現在の生活を支えている身近な場所を残したいという意見がありました。

- ・「自分が通っていた小学校・中学校・高校が残っていてほしい」
- ・「学校は残っていてほしいと思っている」
- ・「図書館 サンマート ローソン 体育館 ガソリンスタンドなどは残っていてほしいです。」

○祭り・伝統・文化

神楽や祭りなど、地域で受け継がれてきた伝統や文化を将来にも残したいという意見がありました。

- ・「神楽を続ける人が残っていてほしいし、守り続けてほしい」
- ・「やくろしか伝説や水源まつりなどの伝統」
- ・「今まで受け継がれてきた伝統文化はこれからも残っていてほしい」

(2) 3.5 あなたは将来、吉賀町がどんな町になったらいいと思いますか。

○自然を残しながら、暮らしやすく便利

豊かな自然を残しながら、交通や買い物、遊びの場などを充実させ、今より便利で暮らしやすい町になってほしいという意見がありました。

- ・「今まで通り自然豊かな町になってほしいけどもう少し交通面を良くしてほしい」
- ・「自然の豊かさや川のきれいさを保ちつつ少しは遊べるところが増えたら嬉しい。」
- ・「自然が豊かで、便利な街」
- ・「この先も自然豊かたでかつ便利なものが増えていけばいいかなと思います。」

○買い物や遊びを楽しめる

商店や飲食店、娯楽・レジャー施設など、町内でも買い物や遊びを楽しめる環境を求める意見がありました。

- ・「自然や地域の方との交流、イベント等が残っている町で、かつ娯楽施設がある町。」
- ・「もっと交通が便利になったり買い物や飲食店が増えていたらいいと思う」
- ・「子どもが遊べるところを増やして買い物ができる所（ショッピングモールなど）を作る」

○人が増え、活気やにぎわいがある

若者や子どもが増えることや、町外から人が訪れることなど、人が集まり、活気のある町になってほしいという意見がありました。

- ・「地域住民誰もが協力をし、若者で活性化されている町」
- ・「少しは娯楽施設や遊べる場所増えてる 若者が増える町」
- ・「人は多くて賑やかだけれど自然や環境は守られている町」
- ・「子どもが増え、活気づいている町」

○人とのつながりがあり、安心して暮らせる

現在の人の温かさや地域のつながりを大切にしながら、誰もが安心して楽しく暮らせる町になってほしいという意見がありました。

- ・「誰もが住みやすく、吉賀にいてよかったと思えるようなまち。」
- ・「ひとりひとりが、自分の居場所を見つけられ、楽しかった、という種を地域の中でつくる町」
- ・「今と変わらず人と人がお互いを思いやり助け合うあたたかい街」
- ・「人のつながりを大切にして、自然が豊かで安心して暮らせる町になったら良いと思います。」

(3) 中高生が考えた「吉賀町のキャッチコピー」

「残したいもの」や「将来こんな町になってほしい」という思いを踏まえ、中高生に吉賀町のキャッチコピーを考えてもらいました。

キャッチコピーには、自然、水・川、人、温かさ、つながり、笑顔、ふるさと、未来など、現在の吉賀町の良さと将来への思いを表す言葉がみられました。

- ・「未来より、先へ。」
- ・「高津川と共に生きる町」
- ・「なにもないけどなんかいい」
- ・「あったけー町 吉賀町」
- ・「共に支え合う町」
- ・「自然と歩みつなぐ絆吉賀町」
- ・「ほっと、よしか」
- ・「心まで澄んでいく、美しいふるさと」
- ・「ひとと自然がつながる町」
- ・「帰りたくなる、ふるさと吉賀」
- ・「清流がつなぐ、笑顔のまち。」
- ・「もっと遊べる。もっと育つ。吉賀町」

3. 職員ヒアリング

職員ヒアリングでは、各担当分野の現状や課題、今後の取り組みなどとあわせて、「10年後、吉賀町がどのような町になっているとよいか」について意見を聞きました。

職員が行政実務を通じて感じている課題なども踏まえ、10年後の吉賀町についてどのような姿を描いているのか、主な意見を整理しました。

(1) 10年後の吉賀町

○人口減少の中でも、安心して暮らせる

人口減少・高齢化が進む中でも、医療や買い物など、生活に必要な機能を維持し、町民ができる限り不自由なく安心して暮らし続けられる町を目指す意見がありました。

- ・「町民ができる限り不自由の無いように暮らせる状態」
- ・「誰もが適切な医療を受けられ、食品や必要な物を購入できる体制」

○小さくても、楽しく暮らし続けられる

人口規模だけを追うのではなく、人口が減少しても、住民が暮らしの豊かさや楽しさを感じ、「ここに住みたい」「戻ってきたい」と思える地域を目指す意見がありました。

また、人口減少を前提として、限られた財源や人材の中で必要な取り組みを選択していく視点も挙げられました。

○若者や UI ターン者など、多様な人が活躍できる

若い世代が町外へ進学・就職した後に戻って働けることや、UI ターン者を含めた多様な人材が地域に定着し、それぞれの力を発揮できる町を目指す意見がありました。

- ・「卒業後、町外に出た人が吉賀町に帰ってきて働いている」

○地域資源を活かし、地域の活力につなげる

自然や農林業、有機農業など、吉賀町が持つ地域資源を活かして新たな魅力や産業を生み出し、町外への情報発信や関係人口の増加、町外から収入を得る仕組みにつなげていくことを求める意見がありました。

- ・「農業の衰退に歯止めをかけるのではなく、新たな町の魅力を作り発信」

○町民・企業・行政がともに地域をつくる

人口減少が進む中では、行政ですべての地域課題に対応するのではなく、町民、企業、行政などがそれぞれの役割を担い、対話しながら協働していくことが重要との意見がありました。

- ・「町民が行政に依存しきらない意識が醸成されている」

(2) 10年後の姿を実現するために重要と考えられていること

10年後の町の姿を実現していくための取り組みとして、次のような意見が挙げられました。

- 住民・企業・行政の対話と協働
- 人材育成、担い手の確保、働き口の多様化
- 地域の魅力や取り組みの情報発信、イベントなどの仕掛け
- 他市町村の先進事例なども参考にした発想の転換
- 財政の健全化と、限られた財源・人材の中での選択と集中

(3) 職員の意見からみえること

職員が描く10年後の吉賀町では、「人口を増やすこと」そのものよりも、人口減少が進む中でも、町民が安心して暮らし続けられる地域をつくることを重視する意見がみられました。

＜参考２＞他自治体の将来像・理念 キャッチコピー

他市町が総合計画等で掲げているまちの将来像や理念（キャッチコピー）の例を紹介します。

地域の特徴や大切にしたい価値観、目指すまちの姿などを、住民に分かりやすく、印象に残る言葉で表現しています。

吉賀町の10年後の姿や、まちづくりで大切にしたい考え方を言葉にする際の参考にしてください。

- ① 岡山県・西粟倉村：生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら
- ② 岡山県・美咲町：ひと 輝くまち みさき / 賢く挑戦するまち
- ③ 千葉県・流山市：都心から一番近い森のまち
- ④ 埼玉県・横瀬町：日本一住みよい町、日本一誇れる町 / カラフルタウン
- ⑤ 滋賀県・草津市：ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと健幸創造都市草津
- ⑥ 広島県・安芸高田市：百万一心、未来へつなぐ安芸高田市

■コピーと説明

- ① 岡山県・西粟倉村：生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら

第6次総合振興計画で掲げる「むらの未来像」です。西粟倉村が長年取り組んできた「百年の森林構想」を背景に、森林や自然環境だけでなく、そこで暮らす一人ひとりの「生きがい」や、将来への希望、住民同士の関わりを大切にするむらづくりを表しています。

地域を象徴する「森林」と、暮らす人の価値観である「生きるを楽しむ」を組み合わせた表現。

- ② 岡山県・美咲町：ひと 輝くまち みさき / 賢く挑戦するまち

第4次美咲町振興計画では、これまでの将来ビジョン「ひと 輝くまち みさき」を引き継ぎながら、新たに「賢く 挑戦する まち」を理念として掲げています。こども、地域共創、若者を柱に、人口減少などの変化に対応しながら、地域や若者の挑戦を後押しする方向性を示しています。

「目指す姿」と「まちづくりに取り組む姿勢」を分けて表現。

③ 千葉県・流山市：都心から一番近い森のまち

総合計画で「目指すまちのイメージ」として掲げています。都心へのアクセスの良さと、身近に森や公園、水辺などの豊かな緑があるという、流山市の特徴を表現しています。緑豊かで良質な住環境をつくり、市民から愛着を持たれる、市外からも「選ばれるまち」を目指す考え方を表しています。

「都心への近さ」と「豊かな自然」という地域の強みを、分かりやすい一言で表現。

④ 埼玉県・横瀬町：日本一住みよい町、日本一誇れる町 ／ カラフルタウン

将来ビジョンとして「日本一住みよい町、日本一誇れる町」を掲げ、その実現に向けた計画の目標を「Colorful Town」としています。「色彩豊かな美しい町」「多様な幸せがある町」をイメージし、多様な人が自分らしく、それぞれの幸せやライフスタイルを実現できるまちを目指しています。

大きな将来ビジョンに加えて、「カラフル」という言葉に多様な意味を持たせ、価値観やまちづくりの方向性を表現。

⑤ 滋賀県・草津市：ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと健幸創造都市草津

第6次総合計画の将来ビジョンです。「絆」には、人や地域のつながりを大切にするという願い、「創造」には、誰もが生きがいをもち、健やかに幸せに暮らせるまちをみんなで作り上げていくという思いが込められています。「健幸」は「生きがいをもち、健やかで幸せであること」とされています。

「つながり」「ふるさと」「健幸」など、大切にしたい複数の価値を一つのビジョンとして表現。

⑥ 広島県・安芸高田市：百万一心、未来へつなぐ安芸高田市

「百万一心」は、毛利元就にゆかりのある言葉として、「一日一力一心」、すなわち一人ひとりが力を合わせ、心をつににするという意味が込められています。地域に受け継がれてきた歴史や文化、人と人とのつながりを大切にしながら、市民と行政など多様な主体が力を合わせ、安芸高田市の未来をつくり、次の世代へつないでいく姿を表しています。

地域の歴史を象徴する「百万一心」という言葉を活かし、「協働」と「未来への継承」を表現。